

# 令和8年産米品質改善技術情報 第1報

今年度は冬季の降水量が極端に少なく、特に1～2月は平年比34%となり(津地方気象台)、現在、用水不足が深刻となっています。これから、田植えが始まりますが、圃場準備や漏水対策をしっかりと実施し、水の有効利用を心掛けましょう。

## 1. 育苗管理

- ・水不足により移植の延期が予想される場合は、寒冷紗による遮光や十分な換気を行い、苗の老化を遅らせましょう。
- ・葉色の低下が見られたら、追肥を行います(窒素成分で1箱あたり0.5～1g)。  
なお、育苗が長くなると、いもち病が発生しやすくなるので、苗箱防除等の対策が必要です。

## 2. 圃場準備

- ・代掻き前の耕起は丁寧にいき、土塊を細かくするとともに、田面の均平を取りましょう。  
タイヤ跡等で、圃場内に通水用の溝を作ると、短時間に水が回るため、効果的です。
- ・畔塗りは丁寧にいき、モグラ穴などを埋め、畦畔からの漏水を防ぎましょう。

## 3. 代掻き

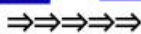
- ・代掻きは、圃場の土が1割程度(水が2割程度)見える状態の水分量で行うことが理想です。  
水量が多いと、稲わら等の残渣が埋め込みにくく、肥料成分も流亡しやすくなります。
- ・水不足により、荒代と植代の2回を行えない場合、1回の代掻きで完了することも可能です。  
その際は、水持ちを良くするために、代掻きの工程数を多くし、ゆっくりと丁寧にいきましょう。
- ・代掻き後はなるべく早く移植を行い、不要な落水を減らしましょう。



(代かき前の状態)



(代かき作業中)



#### 4. 移植後の水管理

- ・移植後は、水尻が止まり、畦畔から漏水がないことを確認し、漏水防止に努めましょう。
- ・初中期一発除草剤の、散布後は水口、水尻をしっかり止め、3～5 日間湛水を維持することが望ましいです。自然減水により田面が露出するようになったら、慌てずゆつくりと水を入れるようにしましょう(1～2 日間田面が露出しても、除草効果は大丈夫です)。
- ・活着期以降も水不足が続く場合、間断灌水により湿潤が維持できれば水稻栽培は可能です。ただし、雑草が発生しやすくなるので、中後期除草剤を用いた体系防除が必要となります。
- ・限りある用水を有効に活用するため、かけ流しは控えましょう。

令和8年 3月5日  
三重県産米品質改善対策会議